

平成28年度 宜野湾市平和学習派遣事業

派遣報告書

平成28年8月7日～8月10日
長崎県長崎市



沖縄県宜野湾市



市長あいさつ



宜野湾市長 佐喜眞 淳

平和学習派遣事業は平和行政の推進を目的に、平成17年度より開始され、今年度で11回目の実施となりました。市内各小中学校から選出された児童生徒を被爆地長崎へこれまでに述べ88名を派遣し、毎年8月9日に行われる「平和祈念式典」及びその前日より2日間に渡り開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の青少年と共に、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでおります。

先の大戦で経験した、沖縄での地上戦や広島・長崎を一瞬にして廃墟と化した原子爆弾投下。このような惨劇が二度とこの地球上で繰り返されることのないよう、過去の歴史をしっかりと若い世代へ伝えていく、そしてその中で平和の大切さを改めて実感させ、「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」を目指す、という本事業の役割は戦後71年が経過した今日、ますます重要となっております。

唯一の被爆国として、日本が、核兵器廃絶の実現に向け、国際社会において主導的役割を果たすことを期待いたします。

本市におきましても、昭和60年に反核・軍縮平和都市宣言を行い、平和市長会議と連携し、核兵器の非人道性を訴え、全世界に向けて核兵器廃絶を求め続けております。

現在、日本国土のわずか0.6%の小さな島沖縄に、在日米軍施設の約74%が存在しております。市域の約30%が米軍基地に占められ、なかでも市の真ん中に居座る普天間基地は市域の約25%を占め、ドーナツ状の街を形作っております。この特異な地形は、市の発展を大きく阻み、そして何より市民の生命・財産を脅かし続けております。さらに、2012年からは、普天間飛行場へMV-22オスプレイが強硬配備されたことにより、市民の基地負担はもはや限界に達していると言わざるを得ません。ついては、関係機関と連携し、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還に向け取り組んでまいります。

さて、今年には戦後71年になります。年々戦争体験者が減少していることに伴い、戦争の悲惨さ、平和の大切さを語り継いでいくことが困難となりつつあります。しかしながら、今を生きる私たちは、次の世代へと戦争の悲惨さ、平和の大切さを継承していく義務があります。派遣生徒の皆様には、今回の平和学習を通して、命がいかに尊くかけがえのないものなのかを学び、これからも平和を強く意識し成長されることを願います。

本市といたしましても、沖縄戦及び原子爆弾によりお亡くなりになられた人々を追悼し、再び悲惨な戦争が起こらないよう、平和事業をとおして平和の大切さ、命の尊さを次の世代へと語り継いでまいります。

最後に、この事業にご参加いただきました生徒やその保護者の方々へ、本事業への多大なるご理解ご協力に対して御礼を申し上げますとともに、市民の皆様には平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。



目次



実施概要	3
団員名簿	4
事前学習	5
派遣日程	6
長崎市内視察	7
被爆遺構巡り	8
青少年ピースフォーラム	9-11
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典	12
長崎平和宣言（長崎市長 田上 富久）	13-14
平和への誓い（被爆者代表 井原 東洋一）	15-16
その他 資料	16
派遣生徒報告	
■ 普天間中学校 2年 喜納 綾菜	17
■ 普天間中学校 2年 ワ リナ 末子	18
■ 真志喜中学校 1年 上江洲 大輝	19
■ 真志喜中学校 1年 木村 孟徳	20
■ 嘉数中学校 1年 鎌田 結乃	21
■ 嘉数中学校 1年 伊礼 優大	22
■ 宜野湾中学校 1年 入佐 琉聖	23
■ 宜野湾中学校 1年 上原 彩來	24
実施要綱	25-26
平和都市宣言（宜野湾市）	27

実施概要

1. 背景と目的

戦後 71 年が経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

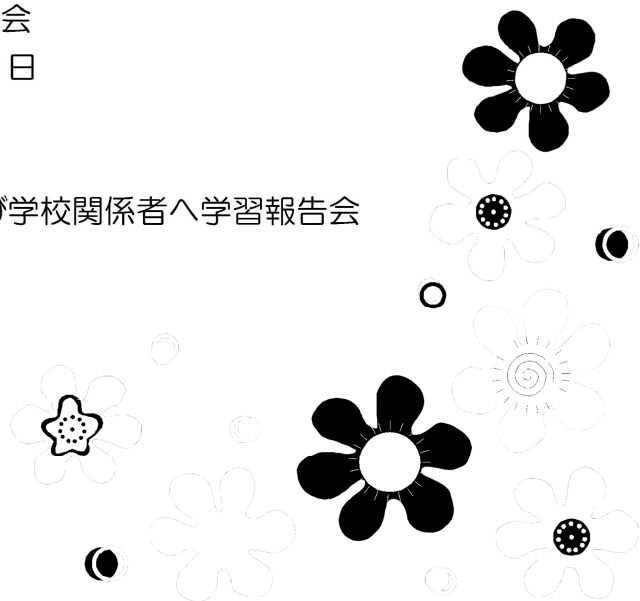
この過去の事実をしっかりと捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では市内生徒（中学生）を対象に、沖縄戦を学びながら、去る大戦での被爆地長崎を訪問する「宜野湾市平和学習派遣事業」を実施しております。

毎年 8 月 9 日に開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことによりこれからの平和な社会を築くことを目的とします。

2. 実施経過

- 平成 28 年 4 月 18 日
宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼
市内各中学校校長へ派遣生徒の推薦依頼
- 平成 28 年 7 月 15 日
派遣生徒・保護者を対象に事業説明会
- 平成 28 年 7 月 27 日
派遣生徒を対象に事前学習会
- 平成 28 年 8 月 7 日～10 日
長崎市で平和学習実施
- 平成 28 年 9 月 6 日
市長・教育長・保護者及び学校関係者へ学習報告会




 団員名簿（平成28年度宜野湾市平和学習派遣事業）


学 校 名	氏 名	学 年
普天間中学校	喜納 綾菜	2年
普天間中学校	ワ リナ 末子	2年
真志喜中学校	上江洲 大輝	1年
真志喜中学校	木村 孟徳	1年
嘉数中学校	鎌田 結乃	1年
嘉数中学校	伊礼 優大	1年
宜野湾中学校	入佐 琉聖	1年
宜野湾中学校	上原 彩來	1年
普天間中学校 教諭	玉那覇 健	引率
宜野湾市役所 市民協働推進課	玉城 彩華	事務局

事前学習

長崎への派遣に先立ち、第2次世界大戦における唯一の地上戦である沖縄戦について学ぶため、平和祈念資料館・市立博物館・嘉数高台公園等で学習を行いました。

期 日：平成28年7月27日（水）9:30～17:30

場 所：平和祈念資料館・市立博物館・嘉数高台公園・チチフチャーガマ・その他市内戦跡

平和祈念資料館を見学し、沖縄戦に至るまでの沖縄の歴史や、住民の体験した沖縄戦の悲惨さについて学びました。



宜野湾市立博物館にて、学芸員から戦前の宜野湾市についての説明が行われました。

戦時中、チチフチャーガマに避難していた住民の様子を学びました。



沖縄戦で激戦地となった嘉数高台公園にて戦跡の見学を行いました。また、展望台より普天間飛行場を眺めながら、戦中・戦後の普天間飛行場について学習しました。

野嵩収容所周辺を歩き、捕虜となった住民がどのような生活をしていたかを学びました。




派遣日程(平成28年度 宜野湾市平和学習派遣)


月 日 /時間	行 程
8月7日(日)	
8:30	那覇空港集合(3F ANA ツアーカウンター前)
9:50	那覇発 全日空 1202 便にて福岡へ
11:35	福岡空港着 貸切り専用バスで長崎へ バス車内にて昼食お弁当
14:30	長崎市内視察 ◎出島資料館 ◎グラバー園 ◎大浦天主堂 ◎眼鏡橋
18:30	レストランにて夕食
20:00	◎稲佐山ロープウェイ
21:00	ホテル着
8月8日(月)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	路面電車で長崎平和公園へ
9:00	◎原爆資料館見学 ◎平和公園 ◎山里小学校 ◎如己堂 ◎浦上天主堂など
12:00	園田真珠にて昼食(飲茶料理)
13:00	青少年ピースフォーラム参加受付 (平和会館ホール)
14:00	開会行事(被爆体験講和など)
15:20	コース別の平和学習(Aコース)
18:00	夕食交流会(長崎新聞文化ホール)
19:30	交流会終了後、ホテルへ
20:00	ホテル着
8月9日(火)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	路面電車で長崎平和公園へ
10:35	「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」
12:00	和泉屋にて昼食(中華セット)
13:30	青少年ピースフォーラム(Aコース)～前日の続き～
19:00	市内レストランにて夕食 ホテル着
8月10日(水)	
7:00	ホテルにて朝食
8:00	貸切りバスにて移動
10:30	九州国立博物館
11:40	太宰府天満宮 見学 太宰府天満宮本殿裏「照星館」にて昼食(合格御膳)
13:00	貸切りバスで福岡空港へ移動
13:30	福岡空港着 搭乗手続き
15:15	福岡発 ANA1211 便にて沖縄へ
16:50	那覇空港着

長崎市内視察（8月7日）

1日目

長崎市内の名所等を巡り、歴史・文化に触れました。

◎ コース 出島資料館 ⇒ 大浦天主堂 ⇒ グラバー園 ⇒ 眼鏡橋 ⇒ 稲佐山ロープウェイ



▲出島資料館（ミニ出島の前にて）



▲出島資料館の係員さんの説明



▲大浦天主堂



▲グラバー園



▲眼鏡橋



▲稲佐山展望台での夜景鑑賞後

被爆遺構巡り（8月8日）

2日目

○長崎原爆資料館

原爆資料館では、爆風で破壊された建物、熱線によって溶かされた皮膚、放射線による病気など、一発の原爆によって一瞬にして変わってしまった長崎の街や人々の被爆の状況について、また、今なお存在する核兵器とその脅威について学びました。



○平和案内人（長崎のボランティア）との被爆遺構巡り

コース：平和公園→山里小学校→如己堂・永井隆記念館→浦上天主堂→原爆落下中心地



▲平和公園・平和祈念像



▲平和案内人からの説明



▲山里小学校原爆資料室



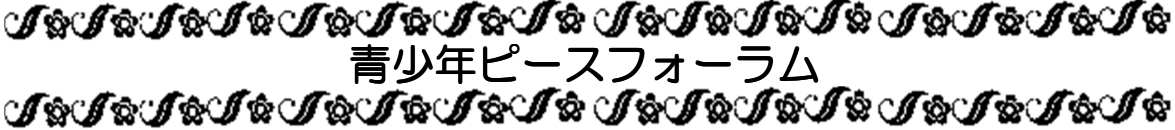
▲如己堂 「己の如く隣人を愛せよ」 永井隆博士



▲浦上天主堂



▲原爆落下中心地



青少年ピースフォーラム

平成28年度 青少年ピースフォーラム

期日：平成28年8月8日(月)～9日(火)

主催：長崎市

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年のみなさんと長崎の青少年ピースボランティアの皆さんと一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として実施しています。

このフォーラムには、長崎市青少年ピースボランティアの高校生や大学生も参加し、平和学習の進行やフィールドワークの案内などを行っています。

宜野湾市は、平和学習Aコースに参加しました。

■ プログラム

日	時	内 容 <場 所>	
1日目 8/8 (月)	14:00～ 15:10	開会行事（被爆体験講話など）<平和会館ホール>	
	15:20～ 17:20	【コース別の平和学習】長崎原爆の実相について学びます。	
		Aコース 平和学習<平和会館ホール> こじんまりフィールドワーク (屋外)<原爆資料館周辺>	Bコース 被爆建造物等の フィールドワーク (屋外)<原爆資料館周辺>
18:00 19:30	交 流 会 (希望者) <長崎新聞文化ホール>		
2日目 8/9 (火)	午前	原爆犠牲者慰霊平和祈念式典への参列<平和公園ほか> もしくは、長崎市立中学校での平和集会への参加	
	13:30～ 15:30	【コース別の平和学習】平和について考えます。	
Aコース 平和学習 <平和会館3階ホール>		Bコース 平和学習 <長崎ブリックホール国際会議場>	

青少年ピースフォーラム Aコース1日目

■ 被爆体験講話

講師 永野 悦子さん



1945年8月9日、学徒動員として勤務中に、16歳で被爆。自宅は全焼し、戸外にいた9歳の弟は、全身火傷のため、3日後に死亡。自宅に被爆した母と妹は原爆症に苦しみ、母は一命を取り留めたが、13歳の妹は苦しんだあげく、1ヶ月後に死亡。生き残った者たちの、怒り・悲しみ・淋しさを伝えたい。この目で見た原爆の恐怖、そして悲惨さを語ることによって、平和の尊さを訴え続けていきたいと思う。と話されました。

○グループ学習

ピースボランティア（学生）の進行のもと、宜野湾市のメンバーと別れ、全国から集まった生徒とグループになりました。レクレーションを交えた自己紹介の後、核兵器の実相、長崎市の平和に関する取組の紹介や、紙芝居「ふりそでの少女」上演、野外でのフィールドワークも行われ、原爆の悲惨さと平和の大切さについて学びました。



▲自己紹介



▲レクレーション



▲原爆による被害



▲紙芝居「ふりそでの少女」



▲原爆殉難教え子と教師の像



▲今の街並み、当時の街並み

夕食交流会

長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。全国から集まった青少年と交流を図ることができました。



青少年ピースフォーラム Aコース2日目

2日目はグループごとに分かれ、「自分にとって幸せとは何か」「世界の代表者だったら何をするか」「平和のためにできること」について議論し、その内容を各グループで発表を行いました。



▲グループで話し合い



▲自分の意見を書きだし



▲会場全体の様子



▲グループ内での発表



▲みなさんの意見を貼った地球儀が完成



▲Aコース参加者全員と集合写真

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 参列（8月9日）



▲平和祈念像



▲前の席に参列



▲会場に向かう道



▲全国から集まった式典参列者

長崎市の平和公園で開催された、「被爆 71 周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に参列しました。

長崎で原子爆弾がさく裂した 8 月 9 日午前 11 時 2 分に、原爆犠牲者への慰霊のため黙とうを行いました。

そして、長崎平和宣言、平和への誓い、被爆者合唱等が行われ、核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました。

長崎平和宣言

核兵器は人間を壊す残酷な兵器です。

1945年8月9日午前11時2分、米軍機が投下した一発の原子爆弾が、上空でさく裂した瞬間、長崎の街に猛烈な爆風と熱線が襲いかかりました。あとには、黒焦げの亡骸、全身が焼けた人、内臓が飛び出した人、無数のガラス片が体に刺さり苦しむ人があふれ、長崎は地獄と化しました。

原爆から放たれた放射線は人々の体を貫き、そのために引き起こされる病気や障害は、辛うじて生き残った人たちを今も苦しめています。

核兵器は人間を壊し続ける残酷な兵器なのです。

今年5月、アメリカの現職大統領として初めて、オバマ大統領が被爆地・広島を訪問しました。大統領は、その行動によって、自分の目と、耳と、心で感じることの大切さを世界に示しました。

核兵器保有国をはじめとする各国のリーダーの皆さん、そして世界中の皆さん。長崎や広島に来てください。原子雲の下で人間に何が起きたのかを知ってください。事実を知ること、それこそが核兵器のない未来を考えるスタートラインです。

今年、ジュネーブの国連欧州本部で、核軍縮交渉を前進させる法的な枠組みについて話し合う会議が開かれています。法的な議論を行う場ができたことは、大きな前進です。しかし、まもなく結果がまとめられるこの会議に、核兵器保有国は出席していません。そして、会議の中では、核兵器の抑止力に依存する国々と、核兵器禁止の交渉開始を主張する国々との対立が続いています。このままでは、核兵器廃絶への道筋を示すことができないまま、会議が閉会してしまいます。

核兵器保有国のリーダーの皆さん、今からでも遅くはありません。この会議に出席し、議論に参加してください。

国連、各国政府及び国会、NGOを含む市民社会に訴えます。核兵器廃絶に向けて、法的な議論を行う場を決して絶やしてはなりません。今年秋の国連総会で、核兵器のない世界の実現に向けた法的な枠組みに関する協議と交渉の場を設けてください。そして、人類社会の一員として、解決策を見出す努力を続けてください。

核兵器保有国では、より高性能の核兵器に置き換える計画が進行中です。このままでは核兵器のない世界の実現がさらに遠のいてしまいます。

今こそ、人類の未来を壊さないために、持てる限りの「英知」を結集してください。

日本政府は、核兵器廃絶を訴えながらも、一方では核抑止力に依存する立場をとっています。この矛盾を超える方法として、非核三原則の法制化とともに、核抑止力に頼らない安全保障の枠組みである「北東アジア非核兵器地帯」の創設を検討してください。核兵器の非人道性をよく知る唯一の戦争被爆国として、非核兵器地帯という人類のひとつの「英知」を行動に移すリーダーシップを発揮してください。

核兵器の歴史は、不信感の歴史です。

国同士の不信の中で、より威力のある、より遠くに飛ぶ核兵器が開発されてきました。世界には未だに1万5千発以上もの核兵器が存在し、戦争、事故、テロなどにより、使われる危険が続いています。

この流れを断ち切り、不信のサイクルを信頼のサイクルに転換するためにできることのひとつは、粘り強く信頼を生み続けることです。

我が国は日本国憲法の平和の理念に基づき、人道支援など、世界に貢献することで信頼を広げようと努力してきました。ふたたび戦争をしないために、平和国家としての道をこれからも歩み続けなければなりません。

市民社会の一員である私たち一人ひとりにも、できることがあります。国を越えて人と交わることで、言葉や文化、考え方の違いを理解し合い、身近に信頼を生み出すことです。オバマ大統領を温かく迎えた広島市民の姿もそれを表しています。市民社会の行動は、一つひとつは小さく見えても、国同士の信頼関係を築くための、強くかけがえのない礎となります。被爆から71年がたち、被爆者の平均年齢は80歳を越えました。世界が「被爆者のいない時代」を迎える日が少しずつ近づいています。戦争、そして戦争が生んだ被爆の体験をどう受け継いでいくかが、今、問われています。

若い世代の皆さん、あなたたちが当たり前と感じる日常、例えば、お母さんの優しい手、お父さんの温かいまなざし、友だちとの会話、好きな人の笑顔…。そのすべてを奪い去ってしまうのが戦争です。

戦争体験、被爆者の体験に、ぜひ一度耳を傾けてみてください。つらい経験を語ることは苦しいことです。それでも語ってくれるのは、未来の人たちを守りたいからだと知ってください。

長崎では、被爆者に代わって子どもや孫の世代が体験を語り伝える活動が始まっています。焼け残った城山小学校の校舎などを国の史跡として後世に残す活動も進んでいます。

若い世代の皆さん、未来のために、過去に向き合う一歩を踏み出してみませんか。

福島での原発事故から5年が経過しました。長崎は、放射能による苦しみを体験したまちとして、福島を応援し続けます。

日本政府には、今なお原爆の後遺症に苦しむ被爆者のさらなる援護の充実とともに、被爆地域の拡大をはじめとする被爆体験者の一日も早い救済を強く求めます。

原子爆弾で亡くなられた方々に心から追悼の意を捧げ、私たち長崎市民は、世界の人々とともに、核兵器廃絶と恒久平和の実現に力を尽くすことをここに宣言します。

2016年（平成28年）8月9日

長崎市長

田上 富久

平和への誓い

幼い頃「神の国日本、ほしがりません勝つまでは」などと教えられて過ごした私は、相次ぐ空襲に逃げまわり、防空壕（ごう）で息をひそめ、日本の敗戦は近いと思っていました。

1945年8月9日、午前11時2分、アメリカが投下した一発の原子爆弾は、ここ浦上の上空およそ500メートルで爆裂し、長崎の町は、一瞬にして廃墟となりました。

原子雲の下は、想像を絶する修羅場となり、日本人だけでなく、強制連行された中国人や動員された朝鮮人、戦時捕虜のアメリカ人や諸国の人々を含むおよそ7万4000人が無差別に殺され、虫や鳥や植物などすべての生き物も死滅しました。

私は当時9歳、爆心地から6.5キロメートルの地で大木に登り枝落としの最中に、巨大な火の玉に目が眩（くら）み、耳をつんざく大音響と猛烈な爆風で吹き飛ばされ気を失いました。

翌日から、救護活動に参加した母や姉、兄などの体験で、惨劇の大きさを知りました。その母も姉も兄も歯ぐきから血を出し、髪が抜けるなど、長い間の苦しみに耐えながらも、次々に原爆症で亡くなりました。

広島で歓迎されたオバマ大統領は、「空から死が降ってきた」と叙情的に表現されましたが、広島ウラン型原爆に対して長崎にはプルトニウム型原爆が投下されたことから、私には2種類の原爆による実験ではなかったのかとの思いがあります。

被爆した町は、国際的な支援のもとに復興しましたが、私たち被爆者は71年もの間、毎日が苦悩の中にあり、2世、3世もその憂いを引き継いでいます。政府には「原爆症」や「被爆体験者」の救済について、司法判断に委ねず、政治による解決を望みます。

しかし、私たちは絶対悪の核兵器による被害を訴える時にも、日中戦争やアジア太平洋戦争などで日本が引き起こした過去の加害の歴史を忘れてはいません。

わが国は、過去を深く反省し、世界平和の規範たる「日本国憲法」を作りこれを守って来ました。今後さらに「非核三原則を法制化」し、近隣諸国との友好交流を発展させ、「北東アジアの非核兵器地帯」を創設することによりはじめて、平和への未来が開けるでしょう。

国会及び政府に対しては、日本国憲法に反する「安全保障関連法制」を廃止し、アメリカの「核の傘」に頼らず、アメリカとロシア及びその他の核保有国に「核兵器の先制不使用宣言」を働きかけるなど、核兵器禁止のために名誉ある地位を確立される事を願っています。

科学の発展が人類の幸せに貢献せず、資源の独占と貧富の差が拡大する限り、世界の不安定は益々厳しくなるでしょう。オバマ大統領が率先して示された「核なき世界実現」への希望は、人類の英知による恒久平和をめざすものであり、「非核の国々による核兵器禁止のための国際的流れ」に共通するものと思います。私たちは、オバマ大統領が「最後の被爆地長崎」を訪問されるよう強く願い、歓迎いたします。

私たち被爆者は、「武力で平和は守れない」と確信し、核兵器の最後の一発が廃棄されるまで、核物質の生産、加工、実験、不測の事故、廃棄物処理などで生ずる全世界の核被害者や、広島、福島、沖縄の皆さんと強く連帯します。長崎で育つ若い人々とともに「人間による安全保障」の思想を継承し、「核も戦争もない平和な地球を子供たちへ！」という歴史的使命の達成に向かって、決してあきらめず前進することを誓います。

地球市民とともに核兵器廃絶の実現を！！

ナガサキ マスト ビー ザ ラスト

2016年（平成28年）8月9日

被爆者代表 井原 東洋一（とよかず）

その他 資料

被爆地・長崎での平和学習を報告

平和のために自分ができること

8月7日～10日までの4日間、市内各中学校の生徒8名が、平和学習で被爆地である長崎市を訪れました。長崎では、原爆資料館の見学のほか、平和案内人の説明のもと被爆遺構を巡り、原爆の悲惨さを学びました。青少年ピースフォーラムでは、全国の青少年と「平和のために自分ができること」をテーマに、積極的に意見を交わしました。また、平和祈念式典へも参列し、原爆被疑者の冥福と世界恒久平和を祈りました。

学習報告会では、生徒それぞれが長崎で学んだこと、平和への想いについて発表しました。

生徒たちは、それぞれの中学校で開催された「宜野湾市平和祈念事業」に出演し、平和学習で学んだことを発表しました。



学習報告会



グループ学習(青少年ピースフォーラム)



ポスター作り(平和祈念事業)



平和祈念式典



平和劇(平和祈念事業)

市報ぎのわん(平成28年11月号)

派遣生徒報告



「平和の大切さ」

普天間中学校 2年

喜納 綾菜

私は、8月7日から8月10日までの4日間宜野湾市代表として、長崎県に行きました。長崎に落とされた原爆や平和、現在の長崎などを学びました。

1日目は、長崎市内の観光名所をまわりました。出島資料館やグラバー園、夜には、日本三大夜景に登録されている、稲佐山からの夜景を見ました。現在の長崎を見ると、あの日、原爆が落とされたとは考えられないほどきれいで、感動的でした。

2日目は、原爆について学習しました71年前の8月9日のあの日、長崎で何が起こったのかを知ることができました。

原爆資料館では、原爆の熱線によって溶けたガラスや原爆直後の様子、被害にあった方々の写真や、ぼろぼろになった服などを見て、原爆の恐ろしさを肌で生々しく感じる事ができました。被爆遺構巡りでは、浦上天主堂や山里小学校などを見学しました。

ピースフォーラムでは、永野さんによる被爆講話を聞きました。その中で「戦争には悲しみと憎しみがある。」という言葉が心に残りました。その後は、各グループに分かれて他県の人と平和について考えました。

3日目は、平和祈念式典に参加しました。長崎市長の長崎平和宣言や被爆者代表の平和への誓いなどを聞いて、

改めて核兵器や戦争を起こしてはいけないと思いました。また、午後のピースフォーラムでは、MY平和宣言を書きました。私の平和宣言は『今の時間を大切に、友達や家族、周りの方と仲良くする』です。世の中が平和になるために自分が出来る事はなにかと考え、身近にできる事から始めようという思いで書きました。

この4日間の平和学習を通して、沖縄戦とは違う悲しみに触れられました。

戦争は怖いや絶対にしてはいけない、など口で言うだけでなく、戦争を起こさないために小さな事から実行に移さなければならないと思いました。

派遣生徒報告



「平和学習を終えて・・・」

普天間中学校 2年

ワ リナ 末子

私は8月7日から4日間、宜野湾市平和学習派遣事業で長崎県に行きました。1945年8月9日午前1時2分一発の原子爆弾によって、約7万4千人もの人が亡くなりました。生き残ったとしても、心に深い傷を負い今でも苦しんでいる人が大勢います。今回の平和学習では色々ことを学びました。

一日目はグラバー園、出島や稲佐山ロープウェイに行きました。グラバー園では外国にいるような気分になりました。出島では様々な貿易を行っていたことを知りました。稲佐山ロープウェイから見る夜景は「本当にここは原爆が落ちたのか」と思う程きれいで感動しました。

2日目は平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念、浦上天主堂や原爆落下中心地などに行きました。私が特にショックなのは山里小学校の被害の大きさです。なんと全校生徒1581人中1300人という信じがたい数の生徒が亡くなったのです。今まで多くの戦争に関する写真を見てきましたが、山里小学校の原爆後の写真は「ここが本当に教室だったのか」と目を疑う程のぼろぼろな状態でした。一瞬にして多くの小さい命が奪われたことを聞いてとても胸が痛みました。同じく2日目はピースフォーラムに参加し、弟を原爆で亡くした方の話を聞きました。その時私は「もし私の家族が一人でも死んだら」と考えただけでゾッとしました。

3日目は平和式典に参加しました。長崎市長の話聞き、核兵器をなくすことが大切だなど改めて思いました。午後のピースフォーラムでは世界を平和にするための今後の目標を決めました。私の目標は「話し合いで物事を決める」にしました。話し合いで決めれば争い事もなくなると思ったからです。

私はこの4日間で、平和は大事だなど改めて思いました。私が今後できることは次の世代にも戦争の恐ろしさを伝えることだと思います。皆の笑顔が増えるように頑張ります。

派遣生徒報告



「平和学習派遣事業に参加して」

真喜志中学校 1年

上江洲 大輝

僕は、原爆のおそろしさ、非さんさを学ぶためにこの平和学習派遣事業に参加しました。

長崎に着いた一日目は長崎の名所を観光しました。歴史の授業にも出てくる出島の中を周ったり、グラバー園など見学しました。中でも一番楽しかった所は、稲佐山でした。とても夜景がきれいで、さすが世界新三大夜景だなと思いました。

二日目には、路面電車に乗って原爆資料館に行きました。そこには、長崎に落とされた原爆「ファットマン」の模型やざんこくな写真、映像などが展示されており、原爆のこわさを知り、被爆者の人達は、僕たちが想像する以上にこわかったんじゃないかと思いました。

資料館に行った後は、ピースフォーラムに参加しました。そこでは、ふりそでの少女の紙芝居や、被爆者の永野さんの話を聴きました。永野さんは、あの日を一日も忘れることができないと、つらそうに話していて、僕も苦しい気持ちになりました。

三日目は、平和祈念式典に参加しました。一番印象に残った事は、長崎市長の平和宣言でした。とても強い気持ちが一言一言に宿っていて、僕も戦争は絶対しちゃいけないという気持ちが強くなりました。

午後には、前日の続きでピースフォーラムに参加しました。他府県の人達と「みんなにとって幸せって何？」という議題をもとに考えを深め、意見交換をしました。

「みんなそれぞれで、ちがう幸せがあるんだなあ。」

と発見することができました。意見交換をすることによってみんなと仲良くできたのも良かったです。

四日目は福岡の博物館や太宰府天満宮にお参りしました。

この四日間で、僕は世界を平和にするためにはどうしたらいいかなと考えました。結論は、「誰とでも仲良くなる」です。人種や国籍が違って仲良くなれば、平和になると思います。

僕はこれからも世界平和を祈り続け、平和するために、努力していきたいです。

派遣生徒報告



「長崎が僕に教えてくれたこと」

真志喜中学校 1年

木村 孟徳

今回の平和学習で戦争や平和について知り、深く考えることができました。改めて原爆の恐ろしさを知ることができました。原爆を体験した被爆者の方の講話を聞いたり、原爆投下の瞬間の映像を見たりして、被爆の想像をして深く考えることができました。平和祈念式典には数えきれないほどの多くの人達が来席していてとても驚きました。式典でのあいさつや合唱から「戦争が二度とおこらないように」「平和がずっと続くように」といった思いが伝わってきました。ピースフォーラムでは長崎の人だけでなく、全国各地から色々な人が来て、戦争や平和についての意見交換はとても貴重でいい体験でした。平和学習で色々な場所に行きましたが、ところどころに銅像があったのは印象に残りました。平和を願う像は数えきれないほどありました。また次行くときに銅像一つ一つを勉強していきたいです。

平和学習以外にも学んだことは沢山ありました。歩くを「さるく」という方言、長崎には「さか、はか、ばか」が多いことなどを二日間お世話になったバスガイドさんが教えてくれました。長崎の豆知識をいっぱい知りました。

毎日の食事はとてもおいしく、残さずきれいに食べました。特に沖縄ではあまり食べない「ちゃんぽん」「皿うどん」が好きになりました。

交流会では、食事をしながら色々な人と色々な話ができとても楽しかったです。そしてお腹が痛くなるほどご飯を食べたのが思い出でした。

ほかに、世界三大夜景を眺めたり、グラバー園や太宰府に行ったりした観光もとてもいい思い出になりました。

平和学習もしっかりできて、長崎のことを知ることができてとてもよかったです。今回の経験をこれからの生活に活かし、沢山の人の人に伝えていきたいです。

派遣生徒報告



「平和な未来」へ

嘉数中学校 1年

鎌田 結乃

およそ 6.2 k g。これは、長崎市に落とされた原子爆弾の主な物質である。プロトニウムの重さです。原爆自体は、約 4.5 t と重いですが、この中のたった 6.2 k g の物質が死者 73884 人、負傷者 74909 人という残酷な被害をもたらしたのです。私はこの事実を知ったとき、とても衝撃を受け、改めて、原爆はとても恐ろしいと思いました。そして、この思いは、2日目の被爆遺構巡りで被爆地を訪れるたび、強く、深くなっていきました。

3日目の午前中に行われた原爆犠牲者慰霊平和祈念式典では、たくさんの方が参列する中で、会場は厳粛な雰囲気につつまれ、テレビでは感じることはできない、長崎の人々の平和への揺るぎない思いを感じることができました。また、式典の中の合唱曲、「千羽鶴」という曲の「地球より重い生命よ 藍の鶴折りたたみ」という歌詞が、とても心に響きました。そして、たくさんの「地球よりも重い生命」を、一瞬にして奪ってしまう核兵器は、二度と使ってはいけないう、世界から無くなってほしいと、心の底から思いました。

長崎は今、71年前の悲劇がうそのように復興し、とても綺麗な街となっています。しかし、決してあの日の出来事を忘れ、風化させてはいけません。

戦後 71 年が経つ今も、被爆者の方達は、苦しみ、その苦しみを語り続けています。その方達もご高齢になり、戦争体験者の生の声を聞くことができるのは、私達の世代で最後になるかもしれません。そのため、被爆者達の声、戦争の悲惨さを、次の世代に伝えていくことは、私達の使命だと思います。その使命を果たすため、この平和学習派遣をきっかけに、私は、平和について、学びつづけます。

それが、「平和な未来」につながることを願って。

派遣生徒報告



「伝えなければならないこと」

嘉数中学校 1年
伊礼 優大

僕は、8月7日から10日までの4日間、長崎に落とされた原子爆弾のことや平和について学びました。僕はこの平和学習で平和について改めて考えることができ、友達や家族など身近な人に平和がどうゆうことなのかを伝えていきたいと思います。

まず、1日目は、長崎市内を観光しました。出島資料館、グラバー園などを見て長崎には日本の歴史がたくさんつまっているということが分かりました。

また、夜は、長崎のキレイな夜景を見ました。ここで思ったことは、こんなキレイな場所に原爆が落とされたとは信じられないということでした。

2日目は、長崎平和公園から平和ガイドさんと原爆資料館を見学し、被爆遺構巡りをし午後からはピースフォーラムがありました。

原爆資料館では、熱線で曲がった鉄塔の模形や、長崎型原爆の実際の大きさや人々の写真を見て、とても原爆は恐ろしい。これからも絶対に落としてはいけないと改めて思いました。

被爆遺構巡りは、平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂、原爆落下中心地を回りました。1945年8月9日午前11時2分原爆落下地点上空500mで爆発したことや、原爆の中心温度は900万度、地上では3000~4000度ということや、被爆地から600m離れた場所にいた人も丸こげになっていたという話を聞いて、僕にはまったく想像が付きませんでした。また、それほど恐ろしいということも改めて思いました。

ピースフォーラムでは、みんな別々の班に分かれ、他県の人と一緒に平和について勉強しました。

最初に被爆者、悦子さんの話を聞きました。悦子さんの話は、とても怖く自分の想像をはるかに超えていました。

3日目は長崎原爆犠牲者慰霊平和式典に参列し前日のピースフォーラムの続きをしました。

長崎平和公園では、いろいろな人の話を聞くことができ、よりいっそう、これからも戦争は起こしてはいけないという思いが強まりました。

前日のピースフォーラムの続きでは、「私達の平和が続くためにはどうしたらよいか」などのことを一人一人考え、班でまとめて、全部の班で平和の地球儀をつくったり、最後には、自分にとっての平和について考えるmy平和宣言を書きました。

僕は、この宜野湾市平和学習派遣事業に参加して、被爆者の話を聞いたり、写真や映像模型などの資料を見たりなど長崎の原爆の恐ろしさを考えさせられた4日間でした。

このような悲惨で悲しい戦争は、これから先もずっと絶対に起こしてはいけないということを忘れずに、家族や友達などの身近な人達に伝えていきたいと思います。

派遣生徒報告



「平和学習を終えて」

宜野湾中学校 1年

入佐 琉聖

僕は、八月七日から十日までの四日間、宜野湾市の平和学習派遣事業に参加するため、市内の中学生を代表して、長崎へ行きました。

僕が住んでいる沖縄とは違う文化や歴史を通して、もっと世界平和について深く考える機会となりました。

初日は、長崎の街、世界遺産となったグラバー園、鎖国時代唯一の貿易港だった出島の資料館を観光しました。その後、稲佐山の展望台から夜景を眺め、原爆が落とされたとは思えないほどの美しさに圧倒されました。

二日目は、原爆資料館見学、被爆遺構巡り、青少年ピースフォーラムへの参加でした。そこでは、被爆者体験講和と、他県の生徒たちとの意見交換や交流会がありました。

三日目は、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に出席し、原爆が投下された午前十一時二分に黙とうを捧げ、その後、前日のピースフォーラムの続きをしました。

四日目は、福岡県の九州国立博物館と太宰府天満宮の見学をしました。

この四日間で印象に残ったのは、給水タンクの脚が、鉄で出来ているのにグニャッと曲がった状態のものや、被害者が着ていた、ボロボロに破れた服です。

この沖縄から離れた場所で、文化も違うけど、沖縄も長崎も焼け野原となっていたのが、今では、沢山の自然、木や花、海の美しさを取り戻しています。これは、平和への第一歩だと思います。

意見交換で全員が同じように願っていることは、兵器のない平和な世界になることです。沖縄と長崎のこの第一歩を世界平和に繋げるには、僕たち全ての人々が、一人一人意識し、協力し合わないといけないと思います。

今僕たちに出来ることは、まず身近にいる家族、友人、知人、周囲の人との平和を守ることだと思います。思いやる心から始め、後世に繋げることです。これこそが僕たちのやるべきことだと思います。

派遣生徒報告



「原爆を知って」

宜野湾中学校 1年

上原 彩來

私は、八月七日から十日までの四日間、戦争や長崎の原爆について平和学習派遣事業を通して学びました。初日は、出島資料館やグラバー園など長崎市内を観光しました。長崎の歴史をととても近くで感じた気がしました。

二日目は、原爆資料館など被爆遺構巡りをした後、原爆について知るピースフォーラムに参加しました。原爆資料館では、当時の写真や原爆による病気など原爆の恐ろしさがとても伝わるものばかりありました。その後山里小学校や永井隆記念館、如己堂などを見学をして、青少年ピースフォーラムに参加しました。ピースフォーラムでは、被爆者の話と原爆について紙しばいやグループでの話し合いを通して学習していきました。被爆者体験講話や紙しばいはどれも、悲惨さが伝わってきて今、戦争のない世界にいる私たちはとても幸せだと実感しました。

三日目は、平和祈念式典に参列しました。式典では長崎市長のあいさつ、合唱などがあり当時、長崎に原爆が落とされた十一時二分に黙とうをしました。黙とう後、たくさんのハトが飛んでいき、私は平和が続いてほしいと思いました。式典が終わった後、ピースフォーラムでこれから自分にできる事について一人一人考えていく事や戦争が二度とおきないためについて考えていきました。

四日目は、福岡県にある、九州国立博物館と太宰府天満宮へ行きました。九州国立博物館では昔の実物や国宝など様々なものを見ることができ、昔の歴史について知る事ができました。

私は、この四日間の派遣事業して戦争や原爆についてさらに知る事ができました。そして、平和に対する意識が変わったと思います。三日目の被爆者体験講和では悲惨な出き事にも関わらず被爆した事についてたくさん話してくれました。今の私に出きる事は、今回学んだ事について次世代に話していく事、そして戦争はもうしてはいけないと思う事だと思います。

実施要綱

宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は、市の平和行政の推進を目的とする宜野湾市平和市民啓発事業の実施により市内生徒を原爆被爆地に派遣し、平和に関する学習、交流等を通して平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市内生徒のなかから派遣される生徒(以下「派遣生徒」という。)を選抜すると共に、その役割及び平和学習派遣事業実施等に関する基本的な事項を定めることを目的とする。

(派遣生徒の選抜)

第 2 条 派遣生徒は、思想、信条、宗教の如何を問わず広く平和を愛する市内生徒のなかから以下の要領で選抜する。

- (1) 派遣生徒は市内各中学校区から 2 名選抜し、定数は 8 名以内とする。
- (2) 派遣生徒の対象学年は中学校全学年とし、選抜方法については各学校長に一任する。
- (3) 派遣生徒は各中学校長名での推薦書(様式第 1 号)及び保護者の派遣同意書(様式第 2 号)を市長に提出し審査後、市長が派遣を決定する。
- (4) 派遣が決定した後に、派遣生徒本人からの辞退申し出があった場合はさらに同一中学校区より補充し、決定する。

(役割)

第 3 条 派遣生徒は、日本国憲法の理念を大切にし、戦争のない社会、ひとりひとりの生命を限りなく大切にする人間尊重の社会を創り、それを発展させるための平和交流及び日常的に生活の中で平和について積極的な活動を行うことを役割とする。

(平和学習への派遣)

第 4 条 派遣生徒は、市の計画する以下の内容の平和学習派遣事業に参加し、平和への認識を深める研修・交流活動を行うものとする。

- (1) 平和学習派遣は 8 月に実施し、派遣先は広島市、長崎市のどちらかを市が決定する。
- (2) 派遣期間は原則として 4 日以内とする。

(3) 派遣生徒は市の計画する事前学習に積極的に参加するものとする。

(費用負担)

第5条 平和学習派遣に係る費用負担については以下のとおりとする。

- (1) 派遣に関する費用(実費)については、旅費・交通費、宿泊費、食卓費、旅行保険費用については市の負担とする。但し、事前学習の交通費については派遣生徒の負担とする。
- (2) 平和学習に関する費用(実費)については、参加料、講師料、施設入館料については市の負担とする。
- (3) 事前研修及び派遣期間中に派遣生徒の責任により生じた経費及び疾病などによる経費は派遣生徒の負担とする。

(随行員)

第6条 派遣期間中においては、下記のいずれかの職員が派遣生徒を随行するものとする。

- (1) 教育委員会職員
- (2) 中学校教員
- (3) 事務局職員

(派遣後の報告書の提出)

第7条 派遣生徒は、派遣事業終了後、以下の内容で報告書を提出しなければならない。

- (1) 派遣生徒は派遣事業終了後1ヶ月以内に市長へ報告書を提出する。
- (2) 前号で定める報告書は、400字詰め原稿用紙2枚以上とする。

(事務局)

第8条 本事業の事務局を平和行政担当課に置く。

附 則 (平成17年6月8日決裁)

附 則 (平成24年4月12日決裁)

この要綱は決裁の日から施行する。

世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市



平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日
宜野湾市

資料提供 長崎市 被爆継承課

発行 宜野湾市

市民協働推進課 平和・男女共同係

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1

TEL 098-893-4411 FAX 098-892-7022

HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>